

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第3学年 「国語（教育出版）」

171時間（7096）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
三上					
1	Aア 知・技(1)イ	言葉に親しもう	「じこしょうかいビンゴゲーム」をしよう	1	・ビンゴゲームに取り組み、自分の好きなものや得意なことを友達に伝えることを活動の中心とする（紙面での交流とする）
			かえるのびよん	1	・読み方を工夫して繰り返し音読することを中心の活動とする
2	Cイ 知・技(1)ク Cエ 知・技(1)カ 知・技(3)オ	一 ほめんのつな がりに気を付けて読もう	白い花びら	8	・各場面の出来事や登場人物の気持ちに気を付けて読むことを中心の活動とする
			「発見ノート」を作ろう	3	・「発見ノート」は、家庭での課題にしたり、随時掲示して紹介したりして、継続して取り組ませる
			国語辞典の引き方	1	・年間を通して国語辞典を引く機会を設ける
			書写	3	・学習用具の準備、片付け方や、姿勢、筆の持ち方を指導する ・点画の種類を確認し、穂先は左ななめ上に向け、筆軸を立てて持つことを意識させる
3	Aイウ 知・技(2)ア Aエ 知・技(1)エ	二 すじみちを立てて発表しよう	たからものをしようかいしよう	5	・伝えたい内容をはっきりさせて、内容のまとまりごとに文章の構成を考えて伝えることを中心の活動とする（距離を保って全員の前で伝える）
			聞いてさがそう	-	・取り扱う時期を★に変更する
			漢字の広場① 漢字学習ノート	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			二年生で学んだ漢字①	-	・①②③をまとめて扱う
4	Cアウ 知・技(1)カ 知・技(2)ア	三 だんらくの要点をつかもう	うめぼしのはたらき	2	・段落の「要点」をつかむ手がかりとなる中心となる言葉や文をとらえることを中心の活動とする
			めだか	8	
5	Bウ 知・技(3)ア	四 しりょうを集めて活用しよう	俳句に親しむ	3	・俳句の言葉のリズムを楽しむとともに、好きな俳句を選び、理由を明確にして紹介することを中心の活動とする
			本で調べよう	3	・目次や索引、前書きや後書き、奥付についておさえ、これらを手がかりにして知りたいと思ったことを調べることを中心の活動とする
			クラスの「生き物ブック」を作ろう	8	・組み立て表を用いて、内容のまとまりごとに段落を作ることを中心の活動とする
			漢字の広場② 漢字の音と訓	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
6	Bアイ 知・技(1)カ 知・技(1)エ		二年生で学んだ漢字②	-	・①②③をまとめて扱う
			書写	2	・始筆・送筆・終筆、筆を動かすリズムと筆圧を意識させる
7			文字の組み立て	2	・部首や部分の組み立てを意識させる
			漢字の筆使い	2	・始筆・送筆・終筆、筆を動かすリズムと筆圧を意識させる
			のらねこ	8	・会話や行動、気持ちを表す言葉に着目させ、登場人物の性格を考えながら読むことを中心の活動とする
			きせつの言葉を集めよう	1	・季節を表す言葉を集め、語彙を増やしていく
8	Bア 知・技(3)イ Aオ 知・技(1)ア		よく見て、話し合おう	1	・写真を見て、音やにおい、さわった感じを想像し、書いたメモをもとに想像したことについて話し合うことを中心の活動とする
			六 つたえたいことをはっきりさせて書こう	7	・取材してわかったこと、自分が考えたことを区別して、伝えたいことをはっきりさせて書くことを中心の活動とする
9	Bウ 知・技(1)キ 知・技(2)ア		取材して知らせよう	2	・メモの取り方の「ここが大事」を押さえ、メモした内容を相手に質問することを中心の活動とする
			インタビューをしよう	2	・インタビューの準備、進め方を理解させる
			手紙を書いてつたえよう	4	・書写の「手紙を書く」と関連させて指導を行う
			漢字の広場③ 送りがな	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
10	Bウ 知・技(1)キ 知・技(1)エ		二年生で学んだ漢字③	1	・①②③をまとめて扱う
			七 場面のうつりかわりに気を付けて読もう	7	・題名と物語の内容のつながりを考えさせる ・場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化とを結びつけて、具体的に想像することを中心の活動とする
11	Cエ 知・技(1)カ 知・技(1)ウ		わすれられないおくりもの	4	・ローマ字の特徴について理解させる ・コンピュータのキーボード入力と関連させながら取り組ませる
			漢字と仮名	4	・漢字と仮名の大きさについて意識させる
12	書写		配列	4	・文字の中心や行の中心を意識させる （※手紙の書き方の学習と関連させてもよい）

三下					
13	知・技(1)ア Cウ 知・技(1)ア 知・技(1)カ	一 絵文字の特長をとらえよう	世界の人につたわるように	8	・「くらしと絵文字」の導入として扱うこととする
			くらしと絵文字		・中心となる語や文を見つけさせ、絵文字の特徴や役割をまとめることを中心の活動とする
14	Aアオ 知・技(1)ア 知・技(1)カ Aイ 知・技(1)ア		絵文字で表そう	6	・絵文字で表す場所は教師側で明示する ・それぞれの役割を考えて話し合うことを中心の活動とする
			気持ちをつたえる話し方・聞き方	3	・話し方・聞き方で学んだことを教室に掲示し、日常的な指導につなげる
15	知・技(3)ウ 知・技(1)エ		漢字の広場④ へんとつくり	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			二年生で学んだ漢字④	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
16	Cエウ 知・技(1)オ Bウ Cカ 知・技(3)オ 知・技(1)カ Bオ 知・技(1)アオ	二 登場人物の気持ちをそうぞうしながら読もう	モチモチの木	7	・導入で大まかなあらすじを確認する ・登場人物の思いや動きを表現した叙述に着目させ、その時の気持ちを考えながら読むことを中心の活動とする
			「おすすめ図書カード」を作ろう	5	・「モチモチの木」を例に、おすすめ図書カードの作り方を指導する ・それぞれの本で、主人公の性格が表れているところや変化がみられるところに着目させ、「おすすめ図書カード」を作ることを中心の活動とする
			こそあど言葉	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			はっとしたことを詩に書こう	4	・詩の特徴について理解させ、最近の出来事で自分の心が動いたことを詩に書かせる
17	Bウオ 知・技(3)イ Cエオ 知・技(1)ク 書写		ことわざ・慣用句	3	・ことわざや慣用句を集めてカードにまとめさせる ・お互いのカードを読み合い、感想を伝え合うことを中心の活動とする
			◆詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	2	・様子がよく伝わるような音読の工夫について考えることを中心の活動とする
			書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる
18	Aウ 知・技(1)イ 知・技(2)イ 知・技(1)カ 知・技(3)ウ 知・技(1)エ	三 調べて発表しよう	町の行事について発表しよう	6	・発表の際の声の大きさや間の取り方、資料の使い方の工夫を中心に指導する
			文の組み立て	1	・主語と述語の関係と修飾語の働きについて理解させる
			漢字の広場⑤ 漢字の組み立て	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			二年生で学んだ漢字⑤	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
19	Cウオ 知・技(1)カ	四 図や写真と文章を、むすびつけて読もう	川をさかのぼる知恵	6	・図と文章を結びつけて、文章を正確に読み取ることを中心の活動とする
			十二支と月のよび名	1	・今も残る昔からの言い方を見つけ、語彙を増やしていく
20	Bエオ 知・技(2)ア 知・技(1)エ	五 つたえたこと、中心を明らかにして書こう	強く心にくっついていることを	7	・「ここが大事」の詳しく書くことのポイントを基に、自分の書いた文章の表現を推敲することを中心の活動とする
			漢字の広場⑥ 二つの漢字の組み合わせ	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			二年生で学んだ漢字⑥	1	・本時で④⑤⑥をまとめて扱う
	書写	まとめ	2	・3年生のまとめとして、自分の名前など学習したことを生かして書かせる	
21	C B 知・技(1)オ 知・技(1)イ Aア 知・技(1)イ	六 登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	おにたのぼうし	7	・1年間の「読むこと」「書くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
			国語の学習 これまで これから	2	・1年間のまとめとして、何を学んだのかを振り返らせる

### ※時間数の精選方法（例）

#### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「取材して知らせよう」では、指導事項内の「自分が考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫すること」を中心に指導し、教材「クラスの生き物ブックを作ろう」では、指導事項内の「文章全体の構成や展開を考えること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

#### ○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②③、④⑤⑥をそれぞれ1時間としてまとめて扱ったりします。

#### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「知識及び技能」（3）「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「本で調べよう」「おすすめ図書カードを作ろう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

#### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校3学年では年間30時間程度行うものとありますが、教育出版では、手紙を書いたり、生き物ブックを書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば便箋や封筒の書き方、本のページの割り付けで文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

#### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。